

# ドクさんタンさん夫妻交流記

2007年2月24日

事務局 竹下

## ☆関空で出迎え

2月24日（土）6：30少し前、便が到着するのが北ウィングなのに、勝手な思いこみで南ウィングの方に歩いていました。Oさんからの携帯電話で到着ウィングの誤りに気付き、何かトラブルがありそうな胸騒ぎを覚えながら、北ウィングへ向かいました。やっと出迎えのNPO MOAのメンバー3名が関西空港に揃った。到着案内の掲示板には、ホーチミン発の6：45到着予定便が6：57到着と12分遅れを表示していました。

報道関係7・8名がカメラを出口に向けて「今か今か」と待機していた。さすがに、グエン・ドクさんのネームバリューは凄いと改めて実感しました。

2005年3月に私達が招請した際の出迎えの時は、ドクさん達が到着出口から出てくるのが、搭乗便の旅客の最後の方で本当にやきもきしたが、今回は招請する主体ではないから、かなり気楽であり、余裕を持ってお客の登場を待つ余裕を持って迎えることができました。

7時45分頃にドクさんを先頭にして、チュエンさんとタンさん夫妻がゲートから出てきました。報道陣のフラッシュとビデオカメラがドクさんとチュエンさんに密着。後から出てきたタンさん（Dr.Tan = 平和村課長）が私達に気づいて、笑顔を向けながら「my husband !」と夫のタン（日本語ではややこしいですが）を紹介してくれました。

花束をタンさん手渡し、タンさんと「はじめまして」の挨拶を交わしました。タンさんの身長は170cm越えと位で。ベトナム人としては、大きな体格と感じました。早速、タン・タンさん夫妻のの記念撮影。

報道のカメラの動きも少し落ち着き、ドクさんとチュエンさんと握手して花束贈呈となりました。

到着フロアの北端に移動して記者会見に移る間、出迎えの主たる目的の2月27日の交流日程と内容の説明を行い、宿舎への移動用のバスが発車するのを見送りました。まずは、順調であった実感。あとは、2月27日の交流の本番を待つのみとなり、ドクさん達を見送って、我々は解散としました。早朝からお疲れさまでした。

